

環境教育ワークショップについて（案）

背景・目的

- 環境問題の多くは、私たちが生活の便利さや、目先の都合を優先してきたことにより生じたものであり、その結果、様々な影響が地球レベルで起こり、身近な生活にもその影響が及んでいる。
- 将来、こうした影響は拡大し、今の社会活動や豊かな生活が続けられなくなることが懸念されている。
- 次世代を担う子どもたちに、身近な環境問題を通して、持続可能な社会や生活について考えてもらうきっかけを作る。

環境教育ワークショップの実施

- 市内の小中学生（小学校4年生以上）20～30人程度を対象とする。
- 子ども目線でSDGsを考え、そして、身近な環境問題を題材に自分たちの生活を見つめ直してもらう。
- 高校生や大学生にも企画から参加してもらい、子どもたちが考えやすい場や雰囲気を作る。
- 正解を求めるのではなく、参加者同士の自由なやりとりを通じ、自分の考えや視野の広がりを感じる場にする。

★実施の流れ

企画（5～6月）

高校生・大学生の協力による実施内容の検討（企画ワークショップを3回程度開催）

募集（6月）

実施（夏休み期間中）

プログラムの例

午前

ゲームや意見交換を通して、SDGsについて考える

午後

身近な環境問題（プラスチックごみ、クマとの共生、温暖化など）をテーマに自分の生活を見つめ直してもらう

実施後

- 学校等へのフィードバック
- 次年度以降にも活用できるプログラムとして検討